
あいさつ ~素直な気持ち~

あららぎ慎駒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あいさつ ～素直な気持ち～

【Nコード】

N3495E

【作者名】

あいらぎ慎駒

【あらすじ】

「あいさつをしましょう」と、誰もが子供の頃に言われてきたはずです。しかし今はどうでしょう？あの頃の素直な気持ちは今も残っていますか？ この作品はエッセイです

あいさつは大切です。

小中学生の頃、親や先生から何度もそう言われてきました。

あの頃は私も友人も素直に話を聞いて、登校時には、すれ違う人は誰にでも「おはようございます」と言っていました。ただ、なぜだか下校中に「お帰り」と言われると、恥ずかしくて返事ができなかったのを覚えています。今は「ただいま」と言えるようになりました。

あいさつをするとき、素直な自分になれる気がします。

通学のために自宅から駅まで歩いてみると、同じ電車に乗るであろうサラリーマンや学生、集団登校中の小学生に会います。小学生はたまにあいさつをしてくれます。私からあいさつをしてはきりがないのでしませんが、あいさつをされれば返します。よそ見をしながら歩いてぶつかってくるような子供がいれば「気をつけて」と言います。これは私の朝の目標でもあります。子供から見て大人と思われる人間になりたいのです。

反対に、サラリーマンや学生とあいさつをすることはまずありません。知らない人にもあいさつをする、と言う素直な感情はここにはありません。もちろん、あいさつをされて嫌な気分になることはないでしょうが、不思議な人と思われたくないというのが本音です。人の目を気にして不安になっている心境です。

しかし、世の中にはすてきな人もいるものです。

いつもの時間に登校中、一人のおばあさんが前方から歩いてきました。畑から摘んできたばかりの色々な花を抱えていました。

おばあさんは、私より十メートルほど前を歩いていた男性にあいさつをしたようでした。しかしその男性は少し驚いたようなそぶり

を見せました。

私は音楽を聴きながら歩いていました。車の音が聞こえるくらいの比較的小さな音にしていますが、普通は声をかけても聞こえないと思うでしょう。しかし、おばあさんは私と目が合うと、「おはようございます」と言ってくれたのです。わたしも「おはようございます」と返しました。なんだか、その日一日元気になれるような気がしました。

あのおきのおばあさんの姿は今もすっかりと残っています。

特に、真っ黒な優しい瞳が印象的でした。例えるなら子犬のつぶらな瞳。いくつになっても少女のような心を持った人なのだと、私は勝手ながら思っています。

あいさつをすることで、ぐっと相手との距離が縮んだり、好印象を与えたりします。あいさつの気持ちよさを再認識させてくれる出来事でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3495e/>

あいさつ ~素直な気持ち~

2010年10月28日05時37分発行